



## 札幌市民防災センター見学会 2題

### ★青少年育成委員会

平成26年10月5日に青少年育成委員会主催の秋の行事として「札幌市民防災センター施設体験見学会」を開催しました。災害が多い昨今、日頃から子どもたちにも防災に対する知識を高めてもらおうと、色々な災害の模擬体験をしながら防災に関する知識や災害時の行動を学ぶことができる施設の体験見学会を企画しました。

参加した10名の子ども達は「地震体験コーナー」、「消火体験コーナー」、「災害バーチャル体験



コーナー」、「暴風体験コーナー」、「煙避難体験コーナー」でいつ発生するかわからない災害を体験しました。関東大震災レベルと東日本大震災レベルの地震を体験できる「地震体験コーナー」は、一般家庭の居間と台所を模した部屋で、テレビから緊急地震速報が流れ、程なく大きな揺れが発生し疑似体験とは思えないほどの焦りと恐怖心を感じます。その状況でストーブやコンロの火

を消し、自分の身を守る行動をとる難しさを身をもって学びました。また「消火体験コーナー」では、スクリーンに映る火災の映像に消火器を使って消火し、消火器での効率的な消火方法を学びました。体験コーナーの他に、はしご車の展示車両は子どもたちに大人気で、目を輝かせて運転席に乗り込んでいました。

・・・取材担当：片山



### ★栄通18丁目町内会

平成26年11月2日（日）、昨夜からの雨のため恒例行事を延期し、この日二つ目の行事、「札幌市民防災センター見学」を予定通り実施致しました。この見学実施の切っ掛けは、「阪神淡路大地震」や「東日本大震災」等々における多くの大災害からの貴重な教訓を基にした各局のテレビ報道番組等を始めとし、行政機関主催の各種災害時の講習や避難訓練が活発に開催されてきた事によるものであります。更に、昨年9月11日、札幌市内の豪雨、6区に亘り避難勧告も発令された事は、もはや災害は「対岸の火事」ではなく「明日は我が身」と認識を新たにせざるを得なくなった事です。

私共、町内会は「行政機関の災害に関する啓蒙」や「連合町内会主催の避難訓練」等々については、その都度会員全体に回観や電話により周知徹底し、参加者を募って参りました。参加の都度、もっと参加者増員に努力が必要と思いつつ、同時に「自助」「共助」の重要性を幅広く喚起せねばと考えております。此度、会員への呼掛けの幅を広げ「札幌市民防災センター見学」を実施し、30名の方々が参加され、新しい顔ぶれが加わり、ことのほか嬉しく感じました。当日、ハプニングがあり肝心の地震コーナーの体験が出来ず残念でしたが、他のコーナーを体験する度に、驚きの声とともに、実際の地震・台風・火事の時はこの体験の何倍の威力になるのか等の話しも出るなど、これらの体験は想像を絶するものでした。

今迄、多くの講習や実施訓練で学んできた「自助」「共助」の重要性を再認識しつつ、今後更なる防災意識の拡充拡大に努力せねばと、心に秘めて帰って参りました。

・・・取材担当：市橋

### 白石サイクリングロードについて

白石サイクリングロードは、昭和49年に旧国鉄千歳線の跡地を自転車と歩行者専用の道路として整備され、開通から40年が経過しております。この年月の間に社会状況・生活スタイルの変化にともない、最近は健康づくりのためサイクリング・ウォーキング・ジョギング等を楽しむ市民が増加しております。このサイクリングロードは東札幌から北広島駅まで約20Kmと長く、札幌市民に人気があり、日本でも有名です。以上のようなことから、近年は特に自転車と歩行者及びジョギング者との接触事故が起り、危険性が高まっています。



実際、私自身もこの6年間、毎年サイクリングロードでトンネルのタイルアート制作に参加しておりますが、毎年2~3件の自転車による事故が発生しております。

特に平成26年8月には仲間の一人が自転車（スポーツ車）に跳ね飛ばされて怪我をして、病院に5日間位通院治療をする事故が現実に発生するのを体験しております。→



→このことは私から見れば、この道路の名前が「サイクリングロード」となっており、自転車の人は自分達の道路であると思い込んでいるのではと思います。この様なことから、白石区役所では平成26年8月からこのサイクリングロード利用者を対象にアンケート調査をし、その結果過半数の方から「愛称の変更」をした方が良いとの答えがありました。これを受けて10月からは愛称募集を開始し、インターネット上でも全国の方々に投票してもらっているとの事で、優秀な愛称を絞り平成27年2月頃を目途に新しい愛称が決定することです。（2月12日（木）、新しい愛称は「こころーど」と発表されました。）

このサイクリングロードが、我々地元の住民にとって安全・快適で楽しく利用でき、白石区民いや札幌市民が世界に誇れる宝として、また人間専用の道路として永く後世にバトンタッチしていくことが、我々の責任だと思います。皆様のご協力をお願い申し上げます。

（参考資料・・・広報さっぽろ10月号）

・・・取材担当：中村



### 子どもかるた会

平成26年度の「子どもかるた会」が1月31日（土）に白石東会館で青少年育成委員会の主催で行われました。近年参加者が減少傾向にあり、町内会単位ではチームの編成ができないところが増えてきたため、日本古来の伝統である百人一首を少しでも子どもたちに広げ、お正月の遊びのひとつとして受け継いでほしいと願い、多くの子どもたちが参加しやすい方法を検討してきました。そこで今年度は、事前申し込みで、どの

位かるた（百人一首）を知っているか、取れるかを自己申告してもらい、そのレベルに合わせてくじ引きでチームを決め、午前中は練習、午後からは練習の成果発表会（大会）として開催しました。その結果、73名の子どもたちの申し込みがあり、和気あいあいとした和やかな会となり、子どもたちの交流も進みました。

午前中は、初めてかるた会に参加する子どもには、少しでも取れるように育成委員が教えながら練習を繰り返しました。そのうちに段々取れるようになると自信もつき、笑顔も増えてきました。また、全部取れる子どもたちは、取り札の木札をはじき飛ばす光景もあり、自分の取り札からは目をそらさず、真剣な顔で審判の判定を待つ子もいました。午後からは、試合形式で2回行い積札の合計枚数で順位を決め、1・2位のチームには賞品を、そして参加者全員に参加賞を渡しました。お昼は、恒例となっている育成委員手作りのお雑煮とおしるこを美味しいとたくさん食べて、午後の部に臨んでいました。

これまでとは違う方法で開催することに不安もありましたが、ご来賓として出席していただいた町内会長の皆様はじめ、読み手として協力してくださった方、育成委員OBの方、そのほか様々なことでご協力いただいた皆様の後押しで、何とか無事終えたことを嬉しく思っております。今後はさらに子どもたちにとってよりよい会にしていきたいと考えております。

ご協力ありがとうございました。

・・・取材担当：金子



### 白石東[雪あかりのまち]開催

白石東地区まちづくり協議会が主催した第4回アイスキヤンドル{みんなのあったかい気持ちが灯る白石東地区雪あかりのまち}というイベントが、平成27年1月30日に開催されました。北東白石地区では、地域活性化委員会が中心となって平和駅北口を基点に13条通りをメインにアイスキヤンドルで飾りました。

今年度も、同時開催のところからJR平和駅南口乗降口前に階段状のステージを作り、白石東まちづくりセンター金谷所長をはじめ、大谷地第一町内会、柏町内会の役員の協力により実施いたしました。

柏山通終点にある平和駅の横に積み上げられた雪山を利用し、キャンドルを配置したり、ピラミッド状に重ねたり、また平和駅入口横やバス回転路の横にも2段のキャンドルを重ね、作成しました。幻想的なオレンジ色の灯火を携帯で写したり、東日本大震災の鎮魂ですかと尋ねられたり、親子で記念写真をとったりとほのぼの→

